



第222号

発行責任者  
社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会  
重症心身障害施設 久山療育園  
重症児者医療療育センター  
理事長 宮崎信義  
編集責任者 鍋山泰三  
福岡県糟屋郡久山町大字久原1869  
☎ (092)976-2281  
FAX (092)976-2172

## 「新年のご挨拶」

理事長 宮崎信義

久山療育園が1976年に創立されましたので、2026年は創立50周年を記念する年です。

2020年初頭から新型コロナウイルス感染症の蔓延が続き7年目になり、ようやく日本国内・福岡県内の感染者数が減少していますが、未だ終息には至っていません。感染対策を継続し、重症心身障害児(者)やご家族様、職員や来園者様の健康に留意して参ります。2026年が創立50周年にふさわしい年となることを読者の皆様と共に願つて参りましょう。

### 改めて創立聖句から示されること

久山療育園の創立聖句であるコリントの信徒への手紙二4章18節「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」といふ聖書の言葉から、「新しくされて生きることを思い起こしたいと願います。

### 「新しくされて」生きる

人は神に愛され、「神にかたどつて造られた」者です。創世記1章27節には、人間は元来「神のかたち」に造られたと示されていますが、罪に墮ちることによつてその尊

い「神の似姿」を失いました。キリストを知り、悔い改めて罪を赦され、キリストを受入れることで、「新しい人」すなわち「神のかたち」の再建が実現されます。

### 新しい生き方

エフエソの信徒への手紙4章24節に、「神にかたどつて造られた新しい人を身に着け、眞理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません」と記されています。堅苦しいと思われるかも知れませんが、新年こそ身を正すチャンスもあります。そして、その新しくされた思いから日が差してくる年が開かれるとも思います。

ペトロの手紙一1章23節に、「あなたがたが新たに生れたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生ける御言によつたのである。」と書かれています。新生とは、朽ちることのない、生けるいつまでも変ることのない、神のことばによる教えられています

### おわりに

年頭に当たつて、「重症心身障害児(者)と共に」生きる私たちが、創立50周年を迎えるに当たつて、絶えず新しくされて、一人一人に仕え、支えて行けることを願っています。今年もよろしくと「共に在る」方々にご挨拶申し上げます。

## 理念と展望

## 「第5回運営協議会の提言を受けて」

理事長 宮崎信義

「運営協議会」は、久山療育園重症児者医療療育センター（以下「久山療育園」、「園」と略します）の役割と働きが設立理念に合致しているか、重症児者やご家族及び地域の必要に応えているかを提言して頂く集会です。第1回は2017年10月20日に開催されました

が、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために、2020年から2023年まで休会とせざるを得ませんでした。感染の終息傾向が見え始めた2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し、第4回運営協議会を2024年10月18日から再開することが出来ました。

参加対象者は、7名の運営協議会委員と役員（理事・監事・評議員）及び保護者会・管理職の職員で、今回、2025年10月17日に開かれた第5回運営協議会には29名が参加致しました。以下に述べる主題に注目して、4グループに分かれて主題と関連する課題を自由に協議致しました。

「理念に適う地域福祉推進の実現に向けて」

理事長 宮崎信義

主題に掲げられた「理念に適う地域福祉推進の実現に向けて」の骨子は、設立理念の継承と維持、地域福祉の推進に貢献することと、2026年が開園50周年に当たりますので、園がなすべき課題に向けての将来展望を語り合うことでした。

各グループの討議項目は、

- ①地域のニーズに応えるには
- ②人材確保の支柱を考える③事業継続において、設立理念をいかに継承していくか④入所者・利用者の将来像を考える、という具体的な課題と取り組みを考慮したものでした。

グループ討議の内容をご提示して、「愛の手を」222号の「創立理念と展望」とさせて頂きます。

## 1グループ

「地域のニーズに応えるには」

「サービス提供地域の障害者支援の状況、不足しているサービスは何か

①柔軟できめ細かな支援、地域に開かれた久山療育園であり続けたい。障害者の意思をいかに継承していくか  
②災害時の支援..久山町民の支援も含めて。地元、短期入所、訪問事業、緊急時の支援。  
③在宅支援、保護者の思い..特別支援学校卒業後。親亡きあとの支援。  
④地域移行支援..社会参加。⑤ホームや在宅事業所など。  
行政の支援との連携。

「事業継続において、設立理念をいかに継承していくか」  
①設立理念の理解..捉え直し..「共に生きる」「生命の尊厳」等の理念を自分の言葉として捉え直す。2026年は創立50周年であり、行動指針への反映を企図していく。  
②職員の意識の検証..創立理念「キリストの福音を土台として運営」されることから火曜集会への参加を呼び掛ける。ユーチューブ等の活用で地域へ発信していく。  
③設立理念の広がり..教会や地域との関係性を重視し、ボランティアやミットレーベンネットワークとの連携を継続する。

「おわりに」  
以上、第5回運営協議会での提言と協議を踏まえて、2026年の創立50周年に向けて久山療育園の役割と展望を検証して参りたいと思います。「愛の手を」の読者の皆様からも、これからも提言して頂ければ幸いです。

「2グループ」  
「人材確保の支柱を考える」  
「2040年問題（就労人口の減少等）を踏まえた、人材の確保・育成の在り方についての提言と協議を踏まえて、2026年の創立50周年に向けて久山療育園の役割と展望を検証して参りたいと思います。「愛の手を」の読者の皆様からも、これからも提言して頂ければ幸いです。

「3グループ」  
「事業継続において、設立理念をいかに継承していくか」  
①設立から50年が経ち、社会の変化に対応しながら事業を継続する上で、どの様に設立理念を継承していくか  
①設立理念の理解..捉え直し..「共に生きる」「生命の尊厳」等の理念を自分の言葉として捉え直す。2026年は創立50周年であり、行動指針への反映を企図していく。  
②職員の意識の検証..創立理念「キリストの福音を土台として運営」されることから火曜集会への参加を呼び掛ける。ユーチューブ等の活用で地域へ発信していく。  
③設立理念の広がり..教会や地域との関係性を重視し、ボランティアやミットレーベンネットワークとの連携を継続する。



「4グループ」  
「入所者・利用者の将来像を考える」（10年後・20年後を見据えて）  
「年齢・身体状況・家族構成など、変化を想定した対応を行なう」

①入所利用者の平均年齢は約49歳となり更なる高齢化に備え、合併症の防止等が肝要で

す。一方で年齢相応な生活の豊かさを守りたい。②10年後

の久山療育園での利用者の生

活の在り方を想定して対応し

ていく。平均年齢は約60歳と

なり、保護者は80歳代・90歳代となることから宿泊や移動支援を実施して行きたい。ま

た健康保持を重視し、感染対策・成人病及び合併症の防止を継続して行きたい。  
③生活の質・生活の豊かさ・療育の向上。その人らしい生活の確保。職員の人材育成、ボランティアとの連携。

## 「第46回西日本重症心身障害施設協議会報告」

理事長 宮崎信義

はじめに

第46回西日本重症児施設協議会は、2025年（令和7年）11月13～14日に熊本市で「ホテルメルパルク熊本」を会場として実施されました。総合テーマは、『重症心身障害児（者）施設に求められる在宅医療』、参加者は228名で協議されました。その要旨を報告いたします。

「行政説明」、「今後の障害児入所施設の在り方に関する検討について」

子ども家庭庁支援局障害児支援課移行支援専門官の岡崎俊彦氏によつて行政説明がなされました。以下にその要旨についてご説明致します。

①障害児入所施設の「福祉型」「医療型」への再編・障害児入所施設について、障害種別ごとの体調移行支援専門官の岡崎俊彦氏によつて行政説明がなされました。以下にその要旨についてご説明致します。

②令和4年度の児童福祉法改正から入所する児童の移行調整の責任体制の計画化・令和4年度の児童福祉法改正においては、障害児入所施設に入所する児童の移行調整の責任体制の計画化と、必要な場合に23歳に達するまで入所継続を

可能とする制度的枠組みが構築されました。

③家庭的な養育環境の確保や専門支援の充実・地域生活に向けた支援の充実・令和6年度の障害福祉サービス等報酬改定においては、家庭的な養育環境の確保や専門支援の充実、成人期に向けた移行支援の強化を図り、地域生活に向けた支援の充実、小規模化等による質の高い支援の提供の推進、家族支援の充実が図られてきました。

④障害児入所施設の利用者像が多様化・昨今、障害児入所施設の利用者像が多様化しており、被虐待児や強度行動障害を有する児、医療的ケア児等といったケアニーズの高い児童が、障害児入所施設を利用している現状があります。

⑤「障害児入所施設の在り方に関する検討会」・「障害児入所施設の役割の整理や支援の在り方についての整理・検討が必要になり、今後の「障害児入所施設の在り方に関する検討会」について注目されます。

〈特別講演〉「呼吸を整え、生活を豊かに」

講師は緒方健一氏（おがた小児科・内科学院理事長）で、「呼吸」が生命維持や生活の質に重要な働きを持っていることを講演されました。以下にその要旨を述べます。

①「呼吸」は生命の根幹であると同時に、日々の生活の質（QOL）を左右する重要な要素です。その人らしい生活のリズムや表情を尊重し、「その方が生きる呼吸ケア」を理想としています。

②気道クリアランス（中枢と抹消）は呼吸管理に必須である。

③呼吸の変化は、苦しみや不安、喜びと安心と深く結びついており、重症心身障害がい児者の「豊かな生活」を築く鍵となる。

（シンポジウム2）「児童発達支援センターでの挑戦とその成果」

○NICUから在宅医療への流れ、子育て、発達障害に対する新しい児童発達支援センターでの成果

①Chronnic NICU（新生児ホスピス）の開設（1988年）。

②新しい児童発達支援センターへ

③呼吸ケア」を理想としています。

（シンポジウム3）「医療的ケア児と家族を支える」

講師 西島元利氏（愛泉会日南病院理事長）

①30年以内の発生確率は60～90%

②巨大災害が発生した時、私たち

医療機関は「被災者」であり「担

い手」である。

③自助・共助・公助の3点から、各施設は自院のリスクを可視化し、

津波到達時間・浸水範囲を把握す

ることが出発点となる。ハード面

では、高層階での避難場所確保、

非常用電源の高所設置、飲食料の

備蓄が重要である。ソフト面では、

職員の行動基準、情報発信、孤立

度障害総合支援センター「ルルド」

が主要担当施設として計画されて

います。

（シンポジウム4）「児童発達支援センターの新たなケアの理念の紹介。」

要な要素・「呼吸」は生命の根幹であると同時に、日々の生活の質

（QOL）を左右する重要な要素です。その人らしい生活のリズム

や表情を尊重し、「その方が生きる呼吸ケア」を理想としています。

（シンポジウム2）「児童発達支援センターでの挑戦とその成果」

（シンポジウム3）「児童発達支援センターでの挑戦とその成果」

（シンポジウム4）「児童発達支援センターの新たなケアの理念の紹介。」

報告1. 「日本重症心身障害福祉協会理事会報告」（抜粋）

会理事長 児玉和夫氏

報告者 日本重症心身障害福祉協会理事長 児玉和夫氏

会理事長 児玉和夫氏

2026年1月20日

人からだと病気

第26回

## 「第16回県民公開医療シンポジウム」

センター長／理事 岩永知秋

今回は私の園外活動の一つとして、昨年の9月に福岡県病院協会主催で開催された「第16回県民公開医療シンポジウム」をご紹介しようと思います。

### ■福岡県病院協会とは

まず、「福岡県病院協会」とは何かをお話ししましよう。我が国各県にはこのような都道府県病院協会という組織として活動しています。その中でも福岡県病院協会は、日本で最初に設立した協会で、1950年にその歴史をさかのぼります。公的、私的を問わず、多くの病院の管理者が定期的に集い、医療に関する諸問題の情報交換、意見交換を行なう場として機能しています。「公益社団法人」として認定を受けており、その活動目的は「医療の質の向上と、福岡県内における病院の経営管理の向上を図るための事業を行なう、もって地域医療の普及向上と、県民の健康増進に

### ■第16回福岡県公開医療シンポジウム

福岡県病院協会では公益事業として年1回、福岡県民を

寄与する」とうたわれています。現在242病院（昨年末時点）が参加しております、県内の病床数に占める割合は約80%になります。年1回の定時総会、年1回の臨時総会、年6回の理事会が開催されており、病院委員会、看護委員会などから成る各種委員会を擁し、各委員会が公益目的事業の研修会を企画、開催しています。また年1回は広島県、岡山県、山口県、福岡県の4つが構成する「四県病院協会連絡協議会」を持ち回りで開催しています。会長は九州大学病院長、副会長は福岡大学、久留米大学、産業医科大学の各病院長です。私はこの組織で総務理事を務めており、毎月2回ほど幹部理事で開く「5役会」や、2、3か月ごとに開催する理事会に参加しています。

最初の講演は、特定医療法人社団三光会誠愛リハビリテーション病院院長の長尾哲彦先生から、「フレイ、フレイ、フレイル知らずの明るいシニア生活のために」と題し、お話をいただきました。長尾先生は約20年前、福岡東医療センターに勤務していた頃か

の時代を迎え、平均寿命の延伸とともに、できるだけ長く元気な高齢期を過ごす「健康寿命」の延伸が課題となっています。その中で今回は、フレイル、睡眠、肺炎とその予防、3つを取り上げ、私が日頃からお世話になつている専門家に講演をお願いしました。

初めて当協会の中村雅史会長（九州大学病院病院長）から開会のことばをいただいたのち、3人の演者によるシンポジウムを進行しました。

最初の講演は、特定医療法人社団三光会誠愛リハビリテーション病院院長の長尾哲彦先生から、「フレイ、フレイ、フレイル知らずの明るいシニア生活のために」と題し、お話をいただきました。長尾先生は約20年前、福岡東医療センターに勤務していた頃か

の時代を迎え、平均寿命の延伸が課題となります。心身の老化に伴う衰えは、バランスの良い食事、適度の定期的な運動（散歩や体操など）などですが、その老化が進むスピードが問題となります。心身の老化に伴う衰えは、バランスの良い食事、適度の定期的な運動（散歩や体操など）などにより、フレイルやフレーフレールからの回復が可能であることを、長尾先生は強調されました。特に、家族や友人な

らのお付き合いです。先生にはご施設から握力計をご用意いただき、フレイルの診断基準の一つである握力をシンポジウムの前後で、参加者ご自身に測定していただきました。「フレイル」とは、健康な老化と「要介護状態」の中間の状態のことです。日本版フレイル基準は、①体重減少（6か月で2kg以上の意図しない体重減少）、②筋力低下（握力）、③疲労感（ここ2週間わけもなく疲れたような感じがする）、④歩行速度（1秒間に1メートル未満）、⑤身体活動（軽い運動・体操、定期的な運動・スポーツを週に1回もしていない）、の5項目のうち、3項目以上に該当するものを「フレイル」、1ないし2項目に該当するものを「プレフレイル」（フレイルの前段階）とします。

最初の講演は、特定医療法人社団三光会誠愛リハビリテーション病院院長の長尾哲彦先生から、「フレイ、フレイ、フレイル知らずの明るいシニア生活のために」と題し、お話をいただきました。長尾先生は約20年前、福岡東医療センターに勤務していた頃か

の時代を迎え、平均寿命の延伸が課題となります。心身の老化に伴う衰えは、バランスの良い食事、適度の定期的な運動（散歩や体操など）などにより、フレイルやフレーフレールからの回復が可能であることを、長尾先生は強調されました。特に、家族や友人な

因とされるβアミロイドやタウタンパクが、脳脊髄液で洗い流される、など、レム睡眠の意義を説明されました。私自身もご多分に漏れず、年とともに睡眠の質が低下し中途覚醒する毎日ですが、お話を聞いて大変参考になりました。また睡眠時無呼吸の患者さんのいびきと無呼吸を音声と動画で具体的に示され、場内の関心を高めました。CPAP治療は先生の得意とされるところですが、睡眠時無呼吸の治療により脳卒中や心筋梗塞、認知症のリスクを下げる可能性について説明されました。なぜヒトや動物は眠るのか、眠らないといけないのか、なぜ老化とともに睡眠が減るのかなど、まだまだわかつていらないことも多く、睡眠科学は奥が深いことを実感しました。

最後の講演は、産業医科大学医学部呼吸器内科学教授で、

産業医科大学病院の副病院長矢寺博先生にお願いしました。私はもともと呼吸器を専門とする医師でしたので、学会や研究会で矢寺先生とは旧知の間柄です。以前は健康な人の気管支や肺には細菌はないというのが定説でしたが、矢寺先生は一定の数、種類の

ウタンパクが、脳脊髄液で洗い流される、など、レム睡眠の意義を説明されました。私自身もご多分に漏れず、年とともに睡眠の質が低下し中途覚醒する毎日ですが、お話を聞いて大変参考になりました。また睡眠時無呼吸の患者さんのいびきと無呼吸を音声と動画で具体的に示され、場内の関心を高めました。CPAP治療は先生の得意とされるところですが、睡眠時無呼吸の治療により脳卒中や心筋梗塞、認知症のリスクを下げる可能性について説明されました。なぜヒトや動物は眠るのか、眠らないといけないのか、なぜ老化とともに睡眠が減るのかなど、まだまだわかつていらないことも多く、睡眠科学は奥が深いことを実感しました。

最後の講演は、産業医科大学医学部呼吸器内科学教授で、産業医科大学病院の副病院長矢寺博先生にお願いしました。私はもともと呼吸器を専門とする医師でしたので、学会や研究会で矢寺先生とは旧知の間柄です。以前は健康な人の気管支や肺には細菌はないというのが定説でしたが、矢寺先生は一定の数、種類の

細菌がいることをデータとして示されています。また、産業医科大学の副院長として、感染対策など大学病院の管理運営にも力を尽くされています。矢寺先生は「肺炎とその予防」というタイトルでした。が、肺炎にとどまらず、間質性肺炎、肺結核、気道感染症など、また最近流行したマイコプラズマ肺炎や百日咳などの呼吸器の病気について幅広くお話をいただきました。講演の中では気管支や肺胞の構造などを、多くのイラストを示されながら、わかりやすく説明されました。誤嚥による肺炎を防ぐには歯磨きや口腔ケアなど、口の中の衛生を保つことが重要であるとお話になりました。高齢者の肺炎は特に早期に診断して、早く治療に持ち込むことが重要であることを強調されました。呼吸器感染症のワクチンも新たなワクチンが登場しており、感染症の予防と克服への挑戦が今後も続いていくことを示されました。新型コロナウイルス感染症が半年ごとに流行を繰り返す中、今年はインフルエンザも1、2か月早く流行が始まっており、タイミングの良い講演だったと思いました。

会場の参加者からはそれぞ

れのご講演に対する質問が多く寄せられ、大変活発なシンポジウムになりました。シンポジウムに関する印象について示されています。また、産業医科大学の副院長として、感染対策など大学病院の管理運営にも力を尽くされています。矢寺先生は「肺炎とその予防」というタイトルでした。が、肺炎にとどまらず、間質性肺炎、肺結核、気道感染症など、また最近流行したマイコプラズマ肺炎や百日咳などの呼吸器の病気について幅広くお話をいただきました。講演の中では気管支や肺胞の構造などを、多くのイラストを示されながら、わかりやすく説明されました。誤嚥による肺炎を防ぐには歯磨きや口腔ケアなど、口の中の衛生を保つことが重要であるとお話になりました。高齢者の肺炎は特に早期に診断して、早く治療に持ち込むことが重要であることを強調されました。呼吸器感染症のワクチンも新たなワクチンが登場しており、感染症の予防と克服への挑戦が今後も続いていくことを示されました。新型コロナウイルス感染症が半年ごとに流行を繰り返す中、今年はインフルエンザも1、2か月早く流行が始まっており、タイミングの良い講演だったと思いました。

会場の参加者からはそれぞ

### ■栄養管理研修会

既述のように、福岡県病院協会は公益目的事業の一つとして、各種研修会を行つてい

## そら 児童発達支援事業「宇宙」インスタグラムやっています



療育の様子をご紹介します。  
QRコードよりぜひご覧ください



# 秋祭り

## 「秋祭りを行いました」

「秋祭りの始まりだあ！」暑さも若干おさまり秋の足音が近づいて来た10月下旬、皆が樂しみにしていた秋祭りのスタートです。今年のテーマは「サンリオ祭り」

みんなが大好きキティーチャンから懐かしのハンギョドンに、たあ坊、ポムポムプリン等、あの可愛いキャラクター達がスイッチで金魚すくい・ワニワニパニック・ハロウィン写真館・はてなボックス・ストラックアウトとコラボ。皆楽しんでくれると嬉しいな。初日はめぐみ棟。夏祭りはコロナの影響で参加出来なかつたので皆の期待値はMAX！

1番人気はワニワニパニックでスタッフやご家族と一緒に楽しそうにやつづけていました。二日目はひかり棟。人気だったのは大画面で行うニンテンドースイッチの金魚すくい！小さなリモコンをしっかりと握つて上に下に一生懸命動かされました。今年はたくさんのボランティアさんが参加して下さった事でより楽しい秋祭りにすることが出来ました。来年はどんな企画になるのか今から楽しみですね。

（めぐみ棟 保育士 原田太一）



「何匹倒せるかな？」



「わにわにばにっく」



「ストライク入るかな？」



「スイッチで金魚すくい(1)」



「スイッチで金魚すくい(2)」



「箱の中身はなんだろな？」



「秋祭りスタッフ集合！！」



「お手伝いしてくださったボランティアさんたち」

## 第56回 公開講座について

研修研究委員長 川上 敏美

11月28日（金）に、第56回公開講座を開催しました。今年度のテーマは「きょうだい支援」です。私たちには障害や病気をもつ方に関わることが多くあります。ご家族を含んだ支援の必要性はどのスタッフも考えていました。しかし、障害を持つ方と「ともに」生きる、きょうだいの方の生活や気持ちの理解は不十分なのではないか、また、今後関わるかもしれませんきょうだいの方に自分たちに何ができるのか、という思いで今回の公開講座の企画となりました。

午前中のト部先生の講演では、「心に残ったきょうだいの声」、「誰にも本音は話せなかつた」に何を思う?」のテーマでお話を頂きました。ト部先生は実際に「ふくおか・筑後きょうだい会」で、筑後きょうだいの方との交流を10数年行っておられ、その中での実際のきょうだいの方のお話が多くありました。その中で、支援者よりも理解者の必要性、分かってもらえた経験の重要性、「助けて」と言える人は極めて少なく、「言えない・言わない・気づいてない」とのお話があり、自分たちの支援への気づきもありました。福祉をサービスの提供という狭い会の中では、「親亡き後の不居者ごきょうだい」、「奈須砂智子氏（重症者ホームひさやま）」、「久山療育園入所者ごきょうだい」の3名のごきょうだいの方からお話を頂きました。

プログラムは、午前中に筑後市社会福祉協議会の地域福祉係長でいらっしゃるト部善行氏より講演、午後からはシンポジウムとして、東茉衣子氏（重症者ホームひさやま入居者ごきょうだい）、國友和美氏（久山療育園入所者ごきょうだい）の方へ理解も、幼少期・思春期・成年期などで様々あると感じますし、ごきょうだいを取り

午前中のト部先生の講演では、「心に残ったきょうだいの声」、「誰にも本音は話せなかつた」に何を思う?」のテーマでお話を頂きました。ト部先生は実際に「ふくおか・筑後きょうだい会」で、筑後きょうだいの方との交流を10数年行っておられ、その中での実際のきょうだいの方のお話が多くありました。その中で、支援者よりも理解者の必要性、分かってもらえた経験の重要性、「助けて」と言える人は極めて少なく、「言えない・言わない・気づいてない」とのお話があり、自分たちの支援への気づきもありました。福祉をサービスの提供という狭い会の中では、「親亡き後の不居者ごきょうだい」、「奈須砂智子氏（重症者ホームひさやま）」、「久山療育園入所者ごきょうだい」の3名のごきょうだいの方からお話を頂きました。

午後からは3名のごきょうだいの方からお話を頂きました。一緒に暮らしていた時の気持ちやエピソード、「ごきょうだい・ご家族のライフィイベン」トのお話がありました。ご両親と障害をもつ方と、ともに歩んでこられた人生の歴史を少しだけ教えていただき、とても心が温かになりました。名ともに障害をもつきょうだいの方との生活を悩んで、また、楽しんで過ごしていくつらいやつたことが分かりました。その中で、幼少期の頃に親がやがつた職員に褒めてもらったり声をかけてもらつたことを嬉しかつたとも言われてつたり声をかけてもらつたことなどを感じました。

きょうだい支援のアクティビティを当センターが実際に行っているわけではありません。しかし、今回の公開講座を通じて、自分たち一人ひとりの声掛け一つ、理解一つでできることがあることを改めて教えて頂きました。また、それぞれの施設・立場で、障害をもつ方だけでなく、ごきょうだいの方とも信頼関係を築き、寄り添つた看護・支援をしていく事の大切さを、あらためて心に刻むことができました。参加者の一人一人が今後この講座での学びを活かしていくことと信じております。

参加者は外部では福岡市や粕屋近郊から28名が参加され、久山療育園のスタッフも勤務の都合上入れ替わりがありましたが、外部の方と合わせて80名ほどが参加しました。施設職員のみでなく、ご家族の参加もあり、幅広い参加者と



# 2025年久山療育園クリスマス

12月18日(木)に園クリスマス礼拝が開催されました。気温もそれほど寒くなく、穏やかな気温に恵まれました。新型コロナウイルスも完全に終息したとはいえない状態ですが、久山療育園では大流行にはならず、徐々にコロナ以前の生活に近づいています。そうした中で、昨年よりも多くの方々にクリスマス礼拝にご出席頂き、お祝いをすることができ嬉しく思います。

礼拝のプログラムは、今年も聖歌隊までは編成できませんでしたが、キリスト降誕の聖書箇所を職員2名が朗読し、交換に会衆が讃美歌を歌っています。奏楽は宇美キリスト教会の間村史子牧師にご奉仕頂き、クリスマスの喜びを心から味わう時となりました。説教は福岡ベタニヤ村教会の田口昭典牧師より「なぜ神は人となつたのか」と題して賜りました。神ご自身が人を愛し慈しむが故に、人の姿をとり「新生児」となつてこの世に生まれ、神は人を信頼し、その成長を人の手に委ね共に歩まれた。そこに神の愛が示されていると語られました。久山療育園で生活又通つてこられる重度心身障害を負つた方々の中に、そこに人の手に委ねられた新生児のイエス様を見出すとのお話をでした。話をお聞きし、久山療育園の働きには、神の愛が表さ

れているとの励ましを受けました。これからも、神の愛と人々の願いと共に、療育園の働きが続けられますようお祈りいたします。

(クリスマス実行委員会)



## 「久山療育園の改修工事を行っています」



センター（正面玄関側）



センター（グラウンド側）



センターひかり増築棟（クロス張替え）



職員宿舎（寮）

2008年の建築より17年が経過しました。重症児者のいのちを守る大切な建物を長く維持するために8月より外壁塗装工事（一部内装工事を含む）・屋上防水工事を実施しています。同時に職員宿舎についても改修を進め、wi-fiの環境整備、カメラ付きインターホンなどの設備を充実させ、職員の快適な住環境を整える予定です。皆様から頂いた大切な献金を活用させていただき、50周年を美しい姿で迎えることができることに感謝いたします。

（事務部 担当課長  
松川 寛）

## 愛の手を

# 病棟イベント



「みんなでゲームをしました」

12月17日は、一年に一度の、みんなが楽しみにしているクリスマス会でした。今年は、5年ぶりに、ご家族にも参加していただきました。無事に開催でき、職員一同嬉しく感じています。

利用者さんは、礼拝では少し緊張した雰囲気でしたが、第2部の祝会では、親御さんと一緒にゲームを楽しんでおられました。サンタさんからのプレゼントにも、目をキラキラと輝かせておられ、思い出に残るクリスマス会になつた事と思います。

（めぐみ棟 介護福祉士 犬塚美樹）

## 「めぐみ棟クリスマス会」



「私はピスタチオケーキ！」



「チョット緊張しています」



「かわいいサンタ」



「サンタとトナカイの登場！」

12月17日、ひかり棟クリスマス会が実施されました。ご家族の皆様も参加し、和やかな雰囲気で始まりました。ひかり棟では、クリスマスの音楽会や思い出を振り返るムービーなど盛りだくさんでした。

クリスマスランチではおいしいお食事とケーキを頂き、サンタクロースに変身したり、楽しく写真を撮りました。最後はサンタさんからプレゼントをもらいました。

ご家族の皆様も参加のクリスマス会。たくさんの方々が楽しく参加できました。

（ひかり棟 保育士 山下莉奈）

## 「ひかり棟クリスマス会」

### 今年はみんなでメリークリスマスー！」



「プレゼントもらっちゃった！」



「みんなでサンタに変身！」



「楽器を鳴らすよ！」

## めぐみ棟より

「猪野公園に行ってきたよ」



「先生とハロウィン記念」

(めぐみ棟 療育主任 嘉村由香)

10月になつてもまだまだ暑い日もありましたが少しずつ涼しくなつてきたので、暑い事が苦手なメンバーにとつては漸くお出掛けのし易い時期となりました。

猪野川の畔の散策やゲームセンター、お店でお買い物。園内や病棟内とは違つた川の水の流れれる音や紅葉していく景色、キラキラした照明、クレーンゲームを操作する機械や車の振動、景品が取れて大はしやぎのスタッフの声…。

一年の間でお出掛け出来る回数は多くはありませんが、沢山の「いつもと違う」刺激を楽しんで貰えると嬉しいです。



「いろんな景品があって迷っちゃう」



「秋が近づいてきたね」

## ひかり棟より

「お菓子貰ったぞ」



「一口食べてこの表情 ニコ」

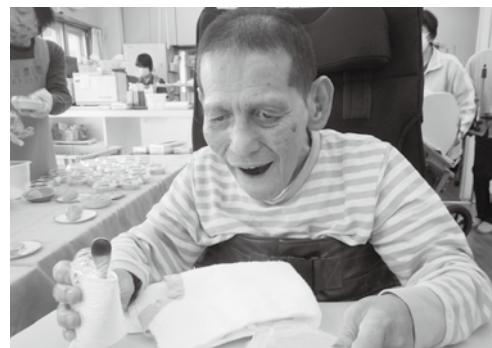


次の開催が楽しみですね。  
(ひかり棟 介護福祉士 富田裕規)

今月はみんなが楽しみにしていた喫茶活動がありました。今回のやつはかぼちゃプリン、スイートポテトです。みなさん好きなお菓子をもらつて楽しそうでしたね。ジュースとお菓子を食べながら写真の笑顔が見られていました。またりとした時間を過ごすことが出来ました。

## 「11月の喫茶活動」

「どれも美味しいぞ」



「みんな！！食べよう」

# 通所で頑張っています



「みんなまだかな？」



「みんなで歌おう！」



「一緒に踊ろう♪」



「オリジナルソングもノリノリ♪」



「通所 APT 隊 !!」



今年もみんなでクリスマス会を行うことができました！  
第1部の礼拝では、今という瞬間を皆さんと過ごせていることに感謝することができました。

第2部は今年も通所のオリジナルソングを2曲みんなで合唱し、ゲストにはスマーリングホスピタルジャパンのみなさんを迎えて素敵な演奏を聴き、クリスマスマードが一気に高まりました。昼食には、クリスマスランチにケーキと皆さんの会話を弾んでいました♪  
第3部は、職員による出し物とクリスマスマースピードクリスマスプレゼントをもらい、みんなを盛り上げました！今年も笑顔いっぱいのクリスマス会になりました！

（通所 保育士 桑原リサ）

外来  
療育

宇  
そら  
宙

## 「秋の活動」

この秋、宇宙ではトリアス久山の「ふれあい動物園」へ園外活動に出かけたり、ホールに現れた芋ほりをしたりと秋を満喫しました。

園外活動の日はとっても良い天気で、子どもたちもお母さんたちも笑顔いっぱいで集合！入場の手続きをしているお母さんのそばで、すでに嬉しそうな表情の子どもたちの姿がありました。ふれあい動物園では、やぎやフラミンゴ、リス、うさぎ、モルモットなど、いろいろな動物とのふれあいを楽しめました。虫や野菜が餌の動物たちに、餌を手に持つて動物の近くへ行く子どもたち。大きなやぎの顔が近づいても、フラミンゴやモルモットに餌をやる時も、怖がることなくお母さんたちと一緒に餌をやる事が出来ました。まだ人の少ない時間帯、みんなの笑い声が動物園内に響き渡っていました。

動物園を楽しんだ後は、トリアス久山にあるシャトレーゼでお買い物をしました。自分でさつと選ぶ姿やお母さんと一緒にじっくり選ぶ姿などそれぞれお母さんと一緒に会計も済ませ、買い物を楽しんできました。

そして芋ほり！「芋ほりに行きましょう♪」と歌いながらホールに現れた芋畑へ向かいました。土や芋、芋に触れるのが苦手で泣いてしまったり、友達と芋をぐつと引つ張り合ったり、見つけた芋をぽいっと投げたりと、一人ひとりの個性あふれる芋ほりになりました。

掘ったお芋はどんな料理に変身したのかな？

（通所 保育士・児童発達支援管理責任者 寺田智加子）



「大きなお芋、掘ったよ！」



「お芋に触ってみたよ！」



「ヤギさん大きいなあ…」



「フラミンゴさんこんにちは」



「はい、どうぞ！」



# 重症者ホームひさやまより

## 「忘年会」

「今年も1年お疲れ様でした！かんぱーい！」掛け声と一緒にお酒をゴクゴクとはいきませんが（笑）11月30日に少し早い忘年会がありました。今年の忘年会メニューは手巻き寿司でした。

準備の段階から会場の準備をしてくる方や酢飯の準備を手伝ってくれる利用者の方もいて準備からワクワクでした。

具材はサーモンやアボカド、肉みそやきゅうり等、様々な具材が用意されてありました。いなり寿司やお吸い物、デザートにあんみつまでついて豪華なプレートの出来上がりです。

海苔に巻いて食べる方もいれば酢飯に具材をかけてちらし寿司にして食べる方等、それぞれの食べ方で楽しんでいました。

スクリーンでは今年の開設祭の様子や思い出がスライドで流れています。

（重症者ホーム 介護福祉士 柳裕介）



「パクパク食べちゃう♪」



「手作り手巻き寿司♪」



「忘年会はじまるよ♪」

## 「クリスマス会」

今年も鈴の音とともに華やかなクリスマスがやつてきました。毎年ホームではクリスマスのお食事のテーマを決めているのですが、今回のテーマは：『フレンチ』です！フルコースとまではいきませんが、見た目や味も楽しめる献立となっています。前菜はアボカドサラダ、キヤロットラペ、ミックスピーニーズのミートソース仕込みです。さっぱりとした味付けで、皆さんペロッと食べられます。メインはローストビーフでクリスマスらしい一皿といえます。どうもろこしのポタージュは体も温まるスープとなつており、デザートのロールケーキも甘くて優しい味わいです。

食事の前にサンタさんと一緒に「かんぱーい！」と元気に挨拶。色々なサンタさんが訪れて、プレゼントを渡しに来てくださいました。開封する時は皆さんワクワクした表情でした。サンタさんとフォトスポットでもパシャリ。笑顔の絶えないクリスマス会でした。

来年も笑顔あふれる楽しい一年となりますように。

（重症者ホーム 介護福祉士 松本ひらり）



「サンタさんからプレゼント♪」



「美味しいそうなご飯♪」



「皆で乾杯♪」

# 新入職員の皆さん

2025年度春以降に  
新しい仲間2名をお迎えしました。  
感謝とともにご紹介します。

(入職日順)



- ①上村 恵奈（事務員／事務部）  
②利用者の方、働く方、みんなの笑顔が増える  
よう頑張ります。  
③長所・健康。  
④スマートな対応を心がけたいです。

- ①西村 美和（介護福祉士／ひかり棟）  
②笑顔を忘れず、皆さんと一緒に楽しく過ごして  
いけるように頑張ります。  
③長所・ポジティブなところ。  
短所・考えすぎるところ。  
④ご家族に安心してあずけて頂けるよう、利用者  
さんの安心・安全・笑顔を守つて、楽しく生活  
して頂けるように頑張ります。

- ①名前・職名・部門配置  
②久山療育園で働くことについての抱負  
③長所・短所  
④利用者の方や家族などどのように  
関わりたいですか？

## ♪♪♪ 音楽療法のご紹介 ♪♪♪

今回は福岡県障害児等療育支援事業で行っている『音楽療法』をご紹介します。毎月2回、土曜日の午前中に交流ホールで開催しています。今は1歳から18歳まで、7名が参加しています。指導は音楽療法士の先生2名。グランドピアノを演奏しながら個別性に配慮した楽しいプログラムが特徴です。みんなで楽器を鳴らしたり、歌ったり、体を動かしたり：とにかくバリエーション豊富！楽器は自分で好きなものを選べるので自然と笑顔が広がります。活動の中では、ちょっとしたエピソードもたくさんあります。例えば、ある子が楽器を、本来の使い方とは違う方法で鳴らしてみんなを驚かせたり、年齢差のあるお子さん同士が一緒に活動することで「待つ」「譲る」「声を控える」といった変化を見せてくれたり：。音楽を通じて、子どもさんが新しい一面が自然と引

き出されているのを感じます。保護者の方からも「参加して、びっくりするくらい歩けることがわきました！」との声が届いています。音楽の力ってすごいですよね。先生方からも「年齢差がある仲間が加わったことで、周りに対する共感や注意力が養われていますね」「いろんな興味がわくことでご本人の力が引き出され、音楽を通じたその子なりの創造性がでてきておもしろいですね」とのコメントをいただいています。専門的なサポートと温かいまなざしで、子どもたちの可能性を広げてもらいたいです。音楽は言葉を超えて心をつなぐもの。子どもたちが自分らしく表現できる場となっています。そして現在、この外来『音楽療法』の参加者を募集しています！音楽を通じて新しい体験をしてみたい方、音楽等に興味がある方、ぜひお気軽にご相談ください。音楽の力をみんなで楽しみながら、笑顔いっぱいの時間を一緒に過ごしましょう!!

(地域療育部 相談支援員  
坂本照佳)



「みんなとリズムあわせるよ♪」



「さあ！みんなで気持ちをひとつに！」



「音を鳴らすたびにドキドキ」



理事 踊 一郎

## 「知恵ある心を得よう」

新年を迎えました。私の手元には、「生まれた年から始まる100年カレンダー」があります。私が誕生した1949年から2048年までのカレンダー、これを見ながら毎年元旦に確認することが二つあります。一つは自分の誕生日、もう一つは今日から100歳を迎える2048年までの日々を想像してみます。そのどこかに人生の終わりの日があるはず、でもあまり心配していません。キリスト教信仰では、その日は神の永遠の御国に招き入れられる喜びの日ですから。

ノーベル文学賞作家フランソワ・モーリヤックの対談集『残された言葉』があります。

死はおそろしいですか」という問い合わせに彼は答えます「いいえ。死が迫つてきてもそれは恐怖ではありません。死は単にひとつ

の物語の終りなのです。そして

別の物語が続くのです。ま

たたく間の出来事です」。永

遠の御国を信じることがで

きる、なんとありがたい信

仰でしょうか。

ではその日に向かつて私

たちはどう生きればいいの

でしょう。旧約聖書詩編90

編には次のように記されて

います。「人生の年月は七十

年程のものです。健やかな

人が八十年を数えても、得

るところは労苦と災いにす

ぎません。瞬く間に時は過

ぎ、わたしたちは飛び去り

ます。生涯の日を正しく数

えるように教えてください。

知恵ある心を得ることがで

きますように」。誰もが学ぶ

べきこと、それは生涯の日

を正しく数える知恵です。

今日という日は神がくだ

さる特別の恵み、そこには

なすべき務めもあるはずで

す。それを明日に延ばすの

ではなく、祈りと愛を込め

て丁寧に行うのです。今日

の働きが終わつたら後のこ

とは心配要りません。キリ

ストは「明日のことまで思

い悩むな。明日のことは明

日自らが思い悩む。その日

の苦労は、その日だけで十

分である」(マタイ6:34)

の物語の終りです。そして別のある物語が続くのです。またたく間の出来事です」。永遠の御国を信じることができる、なんとありがたい信仰でしょうか。

ではその日に向かつて私たちはどう生きればいいのでしょう。旧約聖書詩編90編には次のように記されています。「人生の年月は七十年程のものです。健やかな人が八十年を数えても、得るところは労苦と災いにすぎません。瞬く間に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。生涯の日を正しく数えるように教えてください。

人間のものはなく、恵みが増え

るところは労苦と災いにす

ぎません。瞬く間に時は過

ぎ、わたしたちは飛び去り

ます。生涯の日を正しく数

えるように教えてください。

と言われました。また使徒パウロは「神を愛する者たち、つまり、御計画に従つて召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています」(ローマの信徒への手紙8:28)と言いました。だから後のことば万事を益としてくださる神にすつかり委ねれば良いのです。心が軽やかになります。

聖路加国際病院理事長だつた日野原重明先生の「寿命」の話を思い出します。「寿命」というのは一日一日減つていいくことだと先生は言われました。「寿」の古い文字は「壽」、これは田畠の中の曲がつた長いあぜ道を表わし、それに老人を示す「ヲ」を加えた字で、長命を意味するのです。

募金結果は以上の通りで、募金額、参加者共に昨年を上回りました。参加して下さった皆様、ご苦労さまでした。以上、感謝してご報告させていただきます。有難うございました。

(重症児者と共に生きる「ミットレー・ベン・ネットワーク」)

会長 伊原幹治



## 「久山療育園に愛のクリスマスプレゼントを」

昨年まで年末街頭募金は4日間で行つていましたが、夏の異常な猛暑で3ヶ月間街頭募金を中止しました。そこで、この年末街頭募金を1日追加し、5日間で行いました。

今年は天候に恵まれて暖かく、また雨や雪による中止や中断がなかつたのが幸いでした。ただ、競合する団体があり、苦戦しました。場所は福岡市中央区天神 西日本新聞社(大丸デパート)前、時間は13時～15時でした。

募金結果は以上の通りで、募金額、参加者共に昨年を上回りました。参加して下さった皆様、ご苦労さまでした。以上、感謝してご報告させていただきます。有難うございました。

実施日時	募金額	参加人数(教会・団体など)
12/20(土)	18,205円	25人(3教会・1団体)
12/21(日)	78,618円	14人(8教会)
12/22(月)	34,440円	14人(7教会)
12/23(火)	28,184円	12人(7教会)
12/24(水)	77,843円	21人(7教会)
計	237,290円	86人(32教会、1団体)



# ボランティアだより

## 「ボランティア講習会」

11月8日（土）に「ボランティア講習会」を無事に開催させていただきました。

8名の方が、ホームページや西日本新聞に掲載された案内を見て応募、来園されました。

年代も様々で興味を持っていたら、非常に感謝しております。

ボランティア講習会の内容として、今年度も現役ボランティアさんの体験談をまずお聞きしました。今中富美子様・古賀貫太様のお二人に参加を依頼して、こちらからのインタビューにお答えしてもらう形で久山療育園に対する思い、ボランティア活動についての思い、現在の役割など、非常に心に残るお話をいただきました。

ありがとうございます。

施設見学では参加者の皆さんに車いすを体験していただき園内を回りました。当事者の視点に立ち、移動の不便さやバリアを実感することで、障害者への共感と理解を深めてもらえたようです。

最後に、ボランティア講習会は、園が了証を交付させていただき終了しました。

このボランティア講習会は、園ができる9年前から運動体として活動を続け、名称を変えた現在も全国的な支援組織として久山療育園を物心両面から支えていたとしている「ミッテルコロニー友の会」の重要な働きの一つである、ボランティア活動



## 歩行器

## 職員募集

を継続していくという目的もあります。

以前にも「愛の手を」に掲載しましたが、当センターのボランティア委員会の目標は、

①ボランティアの方々とのつながりを持続する②ボランティアの方々へこれまでの感謝を伝える③ボランティア活動の継続・新規活動者の開拓と挙げています。やはりこのボランティア講習会は、この目標を達成するにあ

たり大切な機会であると考えます。

ボランティア活動とは、『自らの意思で自発的に、無償で社会貢献を行う活動で、福祉、環境、災害支援、文化など多岐にわたり、地域や社会を良くするだけでなく、参加者自身の成長や新たな出会い、学びにも繋がる活動』と言われています。

これからも、ボランティアの方々との継続した交流を目指して、それにより利用者との触れ合いにもつながり、より利用者のQOLの向上につなげていけるように、一つ一つのつながりを大切にしていきたいと思います。

「未使用タオルの募集につきまして」たくさんのご寄付ありがとうございました。利用者さんのために大切に使用させて頂きますので、引き続きよろしくお願ひ致します。

（ボランティア委員長  
島津洋昭）

## 【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールがございます。「興味があるけど、どんなことするのか心配…」「行ってみたいけど、手続きは？」など、いつでもご質問いただけようになっています。お気軽にご利用ください。

bora@hisayama-smid.jp

毎年のことではありますが、12月8日に開催された福岡市民クリスマスに出かけてきました。

新しく建てられた市民会館は照明も柔らかく洗練された建物でした。聖歌隊コーラス、弦楽四重奏、そして西南大学院生であり芥川賞受賞作家の鈴木結生氏講演と、クリスマスを祝う

に相応しい催しでした。鈴木氏より著書「ゲーテは全てを言つた」の中に出てくる、クリスマスマッセージを語る牧師の説教の続きをこの市

民クリスマスのために追加して語つて下さいました。著者だからこそ成せる特別な場面に出席できることを嬉しく思います。

講演の中で、メッセージを語る牧師の説教の続きをこの市民クリスマスのために追加して語つて下さいました。著者だからこそ成せる特別な場面に出席できることを嬉しく思います。

講演の中で、

クリスマスとはいつたい何なのか、どう捉えているかなど、ブリューバルの絵画「カーニバルとレント」を題材に展開されていきました。クリスマスを“お祭り”又は“宗教行事”と捉えて

いるか、歴史的な経緯を聞きながら思いを巡らす機会となりました。冬の寒い時期（冬至）をお祭り騒ぎで乗り越えていこうとする人々の活動と、神の御子イエスの誕生を厳かに迎えよう

とするキリスト教会の姿勢と、二つが交錯するところに神と人との入り混じった共存（正に神の御子が人として生まれた）がクリスマスの中に起こっているように思います。全く異質に思える二つの価値観が同時に繰り広げられています。正にクリスマスの時期は最も平和を願うときであると。一日も早く、世界に平和が訪れますようお祈り致します。

（T・N）

※詳しくは、ホームページ「重症心身障害施設久山療育園 (<https://hisayama-smid.jp/>)」またはQRコードをご覧ください。

重症心身障害施設  
久山療育園ホームページ  
<http://hisayama-smid.jp/>



求人情報



【専門職種】  
●介護福祉士・保育士・介護職員実践  
者研修及び初任者研修修了者（重症心  
身障害児者への日常生活の介助業務  
食事介助、入浴介助、療育活動等）  
●看護師（重症心身障害児者への看護  
業務・医療処置）  
●調理員（調理師・栄養士）  
（重症心身障害児者《入所・通所利用者》  
への食事の提供）  
●事務員（SE、設備管理）  
●その他（職種）  
●日常生活補助業務（洗い物、リネン  
の片付け、利用者の衣類の片付け、日  
常用具の後片付け、居室清掃、ベッド  
寝具整頓など）

【雇用形態】  
●正規職員及びパートタイム契約職  
員

【受付】久山療育園  
事務部担当課長 波田（ハダ）  
TEL (092) 976-2281